



又ひとが育ち輝くまち益田

Masuda Life

発行元 / 益田市役所 地域振興課

〒698-8650 島根県益田市常盤町1番1号

TEL:0856-31-0173

E-mail:teiju@city.masuda.lg.jp

発行日：2025年9月19日

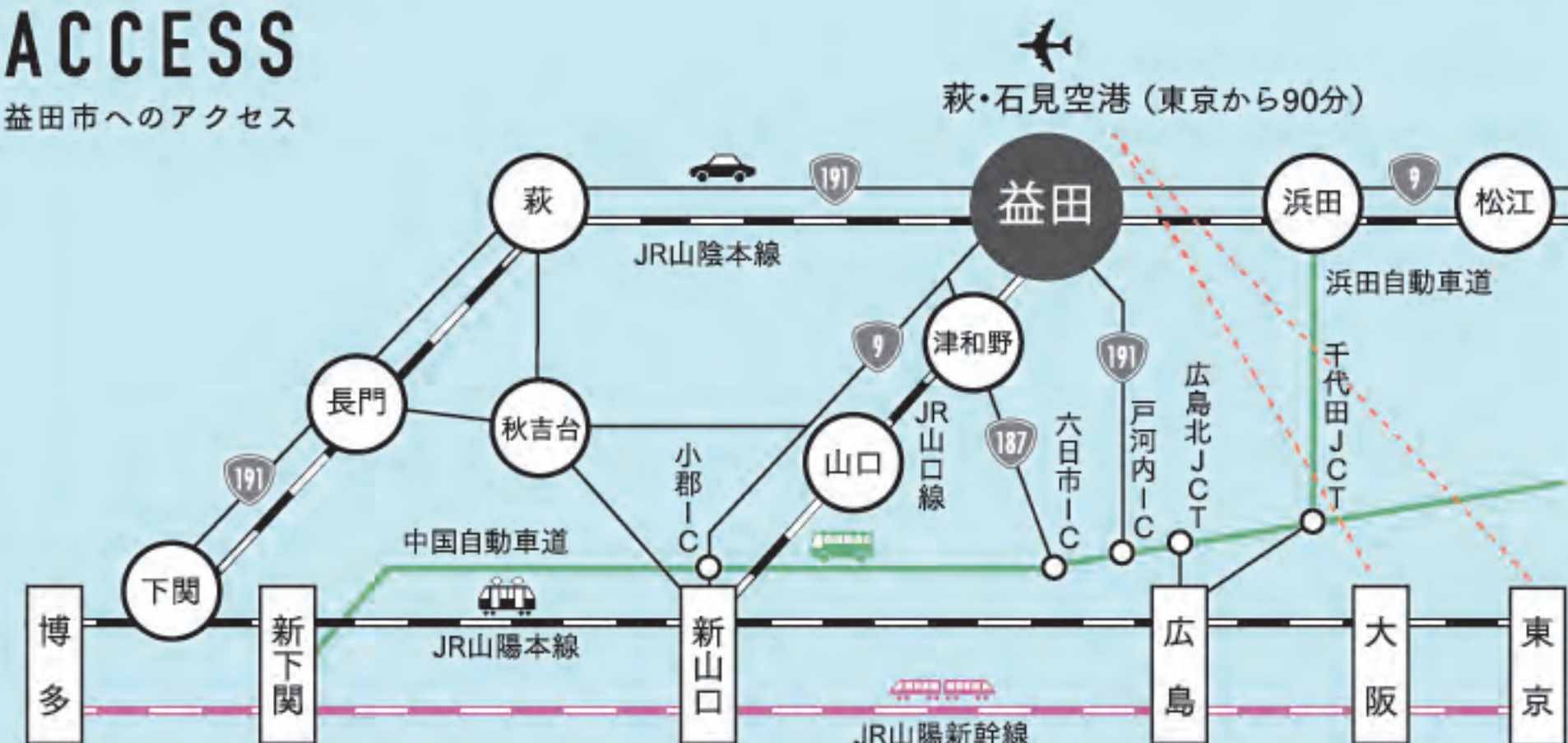
又ひとが育ち
輝くまち
益田



余暇時間
全国1位(島根県)
※出典:2011
総務省「社会生活基本調査」

ACCESS

益田市へのアクセス



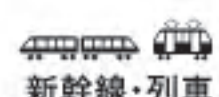
飛行機

萩・石見空港
(益田駅までバスで10分)
・羽田空港から 1時間30分



自動車

浜田ICまたは、戸河内IC 経由
・東京から 11時間
・大阪から 5時間30分
・広島から 2時間



新幹線・列車

新山口駅まで新幹線→山口線の特急
・[東京]から 8時間
・[新大阪]から 5時間
・[広島]から 2時間30分



高速バス

・[大阪]から 7時間
・[広島]から 2時間45分



清流 高津川の水質
全国1位(益田市)

※出典:2006, 2007, 2010, 2011
2012, 2013, 2019, 2023, 2024年
国土交通省「水質調査」



あなたは、どう生きたいですか。

豊かな自然環境に恵まれ、多様な“暮らしの場”から自分に合う場を選ぶことができます。
空港や商業・娯楽施設が立ち並ぶ都市部、オーシャンブルーが広がる日本海に面した港町、
清流日本一を誇る高津川の恵みにあずかる農村集落、中国山地の雄大な自然に囲まれた山村。
あなたは、どこで暮らしてみたいですか。

終業時間が、全国でもトップクラスに早い島根県だからこそ、さまざまな時間を持つことができます。

仕事の時間、家庭での時間、つながりを大切にする地域での時間、
神楽などの伝統芸能に励む時間、家庭菜園や釣りなどの趣味に没頭する時間。
あなたは、どんな毎日を過ごしたいですか。

あなたのライフスタイルに合わせて、多様な“暮らしの場”と“生き方”に満ちた
益田暮らしをデザインしてみませんか。

益田のひと MAP

益田のひとホームページに掲載のある取組について、どんな場所で行われているのか、ご覧いただくことができます。



ABOUT MASUDA

※2025年4月1日現在

【位置】 島根県の西端にあって山口県と接しており、北は日本海を臨み、南は中国山地に至る、山陰と山陽を結ぶ交通の要衝地です。

【地勢】 北部は日本海に面し、海岸は白砂青松の石見潟を形成しています。南部は中国山地に至り、恐羅漢山、安蔵寺山などの山々が連なっています。また、中国山地に源を発する一級河川高津川及び益田川が主要河川となり、日本海に注いでおり、下流部には益田平野が三角州状に広がっています。面積733.19平方キロメートルで、島根県の総面積6,708.27平方キロメートルの約1割を占め、総面積の大半を林野が占めています。特に、美都地域、匹見地域では、9割近くを山林が占め、急峻な山々に囲まれています。

【気候】 平均気温は15～16度で、年間の降雨量は1,500mm～1,700mm程度となっています。積雪については、平野部は対馬海流の影響を受け温暖で少なく、山間部でも近年は暖冬の傾向があり、降雪量も少なくなっています。

【人口】 総人口42,583人、65才以上16,980人、高齢化率39.9%、18才未満5,915人、世帯数21,090世帯

【施設数】 33保育園(うち10園は認定こども園)、2幼稚園、15小学校、17放課後児童クラブ、9中学校、4高等学校、その他3専門学校等



TOURISTS SPOT

益田市の魅力は
色彩の豊かさ



石州瓦の赤瓦が織りなす赤。山々が連なる中国山地の緑。
清流・高津川や日本海の青。
暗闇に舞うホタルの黄色。夜空に浮かぶ満点の星空の白色。
色彩の豊かさは、益田のひとの心の優しさ。
益田のひとの心の優しさこそ、益田市の魅力。

① 衣毘須神社

昭和を代表する日本絵画の巨匠・東山魁夷が宮内庁から障壁画の依頼を受けた際にモデルにした場所です。(障壁画「朝明けの潮」)碧く美しい海に囲まれ、白い砂浜でつながる「宮ヶ島 衣毘須神社」への参道は、潮の満ち引きによって刻々と姿を変えます。さらに、大潮の時には参道が消え、島へ渡れなくなることから『山陰のモンサンミッシェル』とも呼ばれています。

③ 三谷のゲンジボタル

毎年5月下旬から6月下旬にかけて、町内各地でホタルの乱舞を鑑賞できるため、シーズンには市内をはじめ、県内外から多くの方が訪れます。毎年ホタルを見ることができるのは、日頃から、ホタルの生息時期を避けた草刈りや、農業集落排水施設の設備等による河川浄化活動など、地域住民が一丸となって環境保全活動に取り組んでこられた努力の賜物と言えます。

⑤ 匹見峡

前匹見、奥匹見、表匹見・裏匹見の4つのエリアに分かれ、それぞれ異なる景観が楽しめる匹見峡。4つの匹見峡の入り口となる前匹見は、国道488号線沿い匹見川中流域から約1kmにわたる渓谷で、天狗岩などの奇岩を見ることができます。奥匹見は、駐車場から1.1kmの渓谷で、最奥部にある落差53mの「大竜頭の滝」は圧巻です。

② 蟠竜湖

海風に吹き寄せられた砂丘が隆起し、海岸の谷がせきとめられて出来た堰塞湖湖といわれています。その発生については、長者伝説などが伝わり、多くの謎を秘めています。その名は、竜がわだかまった形に似ていることから名付けられました。上の湖(周囲4km、面積8.3ha)と下の湖(周囲2.1km、面積3.5ha)に分かれた淡水湖で、水深は10m以上あります。生息する魚類はコイ、フナ、ウナギ、ナマズなどです。

④ 高津川

国土交通省の水質調査で何度も日本一に選ばれている、益田市の象徴。日本で唯一ダムのない一級河川としても有名です。この日本一の清流の恵みを受けた食材は、まさに味も日本一に匹敵するほど。高津川流域のブランド品でもある「鮎」は、全国から釣りファンが集まるほどの人気を誇ります。また、河口付近で収穫される「大ハマグリ」は厳しい自主規制によって守られた逸品です。

⑥ 島根県芸術文化センター「グラントワ」

全国でも珍しい、美術館と劇場が一体となった建物です。フランス語で「大きな屋根」を意味し、施設の愛称にもなっている「グラントワ」の名の通り、大きく広がる屋根だけではなく壁一面にも地元の石州瓦が敷き詰められています。また、石州瓦特有のガラス質の表面が光彩を放つことにより見る角度や時間帯によって建物の印象が変わるため、まさに建物全体が1つの芸術となっています。



ひとが育ち輝くまち益田を選びませんか。

益田市は若者がUターンし、住みつづけたくなる魅力にあふれています。
子育てしやすい、働きやすい環境の中で、起業したい、
地域を元気にしたいという意欲を持つ若者が増えつつあります。
行政だけでなく、教育機関、地域、企業、民間団体が一丸となって
「ひとが育ち輝くまち益田」をつくり上げています。



- 安心して子育てできる益田の実現
- Uターンの推進
- 地域の活性化

学び
成長

1. “未来”に輝く

充実したライフキャリア教育に学校・家庭・地域で育むふるさと教育。子どもたちは「対話プラス」を通じ、地域の様々な人と触れ合い、つながりを持ちます。豊かな自然と大人たちに囲まれ、子どもたちは大きく育ちます。



- 益田に帰って就職する学生の増加
- 若者の起業の増加
- コミュニティビジネスの創業

学び
成長

ひとづくりの環

2. “地域”で輝く

益田市はあなたのオモイをカタチにできるまち。子どもたちは、「つろうて子育て」の中で、地域の魅力を高める活動を経験します。若者や移住された方へは、地域活動への橋渡しを行う「地域づくりびと養成講座」を通じて「やりたい」の実現を手助けします。

3. “しごと”で輝く

子どもたちは「益田版・職場体験」に参加し、地元の産業を知りながら、「益田のひと」の生き方や多様な価値観に触れます。「Uターン者サポート宣言企業」は移住者を積極的に受け入れ、安心して仕事ができるよう応援します。

協働・学び

学校・地域・行政・NPO・企業



- 幼児期から高校生までを対象に、ライフキャリア教育によるふるさとを学ぶ場や地域活動に参画する機会の創出を推進し、未来の担い手を育成します。
- 育った人材が大人となり、産業振興をはじめとした地域の課題を解決していく地域の担い手、あるいは地域資源を活用し地元の産業を支える担い手となって、地域の活力を維持していきます。
- さらに、この担い手が、今度は次世代のロールモデルや指導者となって新たな人材育成に関わっていくとともに、自らも学んでいくという「ひとづくりの環（わ）」を作り、持続可能な人材育成サイクルを作り上げます。



“ひとが育ち輝くまち益田”
についてはこちら▲

益田市の“移住”“定住”支援

益田市空き家BANK

益田市は空き家バンク制度を設け、空き家の情報を提供しています。

この制度は、自身所有の空き家を賃貸または売却してもよいとお考えの方と、益田市での生活のために住宅を探している方にそれぞれ登録していただき、空き家の有効活用を図る制度です。



“益田市空き家バンク”についてはこちら▶

空き家改修事業補助金

益田市では、Uターン希望者の益田市への定住促進を目的に「益田市空き家改修事業補助金」を交付します。

※この事業は、「益田市空き家バンク」に登録された物件を利用するUターン者が対象です。

補助金額 上限50万円（対象経費の1/2）

※世帯に18歳未満の方がいる場合、上限70万円

空き家改修事業補助金についてはこちら▶



MASUDA



1. “未来”に輝く

ライフキャリア教育で未来をつくる

ライフキャリアとはワークキャリア、家庭生活、個人の活動（趣味や自己啓発）、地域での活動などを包括的に考えていくもの。時代とともに、私たちの環境は変わり、状況も変わります。昔の大人たちでは想像できなかった未来が現在あり、私たちが見ることができない未来を子どもたちは生きていきます。そうした中で、価値観も変化をし、職業そのものの種類やあり方も変わっていくでしょう。変化に臨することなく自分の人生を能動的に生きていくことができる力を育むのが「ライフキャリア教育」です。

対話プラス

1対1の対話を通し「これまでの人生と、これからどうありたいか」自分自身の生き方について考えることで、自分の「心に火を灯す」授業です。小学生×高校生、中学生×地域の大人、高校生×益田の大人の対話を通し、児童・生徒が自分の可能性を信じて一歩踏み出す力に繋がっています。

益田版・職場体験

仕事を体験することがメインではなく、日々生き生きと過ごす「益田のひと」の生き方や多様な価値観に触れ、自分自身の生き方を考えるプログラムです。「普段どんなことを大切にしているか」など、大人のひととなりに触れることにより、自分はプログラムを通してどんな「ひと」になりたいかといったことを考える機会です。

つろうて子育て

「つろうて」は（みんなで）連れだってという意味の益田の方言です。「つろうて」を合言葉に、子どもの育ちを家庭や学校任せにするのではなく、地域一体となって子どもの成長を支える仕組みです。益田市では各地区で公民館が事務局となり、「つろうて子育て推進協議会」を立ち上げ、子どもを中心に据えた様々な取組を行っています。

2. “地域”で輝く

Uターン者のライフキャリア

益田市地域おこし協力隊
柴田 健治 さん



益田は中世日本の名残をストーリーとして感じさせる地として、2020年にその町並みが日本遺産として登録されました。柴田さんは2022年に益田市に地域おこし協力隊としてUターンされ、以来、日本遺産のPRや、柴犬発祥の地としての益田ならではの企画を数多く立案・運営されています。

ー 幼少期から歴史はお好きだったんですか？

小学生の頃は、歴史好きな子どもだったと思います。初めて買った小説は『毛利元就』でした。兄の影響で『三国志』にもハマりました。

ー 益田の歴史にも当時から関心はあったんですか？

触れる機会はあったけれど、深入りはしなかった、という感じでしょうか。『毛利元就』の小説中に益田氏がちょっと登場するんですよ。益田氏はその名の通り、中世に益田一帯を治め、現在の益田の基盤を築いた一族ですね。それを読んだ小学生の頃は、「益田の人が出てくるな」という感想を抱くくらいでした。中学生になってからは、他にも気になることや夢中になることができたりして、歴史からはしばらく遠ざかっていたように思います。いま、歴史を中心とした益田の文化資源をPRする仕事に就いていますが、今あらためて益田の歴史の面白さを再発見しているような感覚です。

ー 地域おこし協力隊になってからの活動について、詳しく教えてください

主たる活動は益田の日本遺産についてPRすることです。そして、個人的には益田を柴犬の町にしたいという思いがあるので、歴史と柴犬の二本柱で活動をしている感じですね。

ー 柴田さんは、益田が柴犬の発祥の地であることに着目して、これまで多くの企画をされたそうですね。

東京にいた頃、「益田が柴犬の発祥地」という新聞記事をたまたま読んだんです。益田の中でも知られていなかったんで、本当にびっくりしたんです。「益田に帰って自分に何ができるんだろう」と考えるなかで、「そういえば柴犬の発祥地だったじゃないか」とひらめいて、ちょうど私の名前が「柴田健治」で、略すと「シバケン」。これはもう、私がやるしかないと思ったんです。歴史が好きで、名前もシバケンで、益田に帰ってやるべき道が見えたというか、呼ばれたような気がしたんですね！



（記事一部抜粋）

続きはこちら▶

3. “しごと”で輝く

Uターン者のライフキャリア

うみかぜ工作室
大石 啓子 さん



大石さん夫婦が営むうみかぜ工作室は、鎌手地区の海が一望できる高台にある工房で、廃材となる木材を活かして器をはじめとする各種木工品を製作・販売しています。

ー 実際に益田に住んでみていかがでしたか？益田暮らしの魅力など、教えてください。

私にとっての益田の魅力は、なんといっても、いい人が多いところですね。「与えられること」がとて多い場所、という印象です。そして、人との距離が近い。鏡のようなもので、自分がちゃんとしていたら、それがちゃんと返ってくるというか、まあ、何もなくても恩恵を受けちゃっている感じもあるんですけどね（笑）。そして、そうした関係性の中でも、いい意味であまり気を遣わなくていいというか、かっつけなくていいというか。素の自分のままでいられる、という気持ちは日々感じています。

ー あるものを活かし、大切に使うという思いは、大石さんの作品にも、また、この工房にも反映されているんですね。いただいたものを大切に生きていくという、大石さんの生き方そのものが実現しているように感じました。

そうですね。でも、私は別に「叶えよう」と頑張ってはいないんですよ。そんなパワーも持っていないので。でも、ストライクゾーンが広いから大体なんでも楽しくて、益田で出会ったパワフルな人たちが生み出す流れに、「楽しそう」って乗っかってみるうちに、思い描いていたことが叶っていた、という感覚に近いんです。なんとなく好きなことを口に出したら、うまい具合になった、その繰り返しです。巻き込まれ上手ではあったのかもしれない。

ー それは大石さんに「この人と一緒にやりたい」と思わせる何かがあるんだろうな、と感じました。最後に、益田で暮らしながら大切にしていってほしいこと、これから大切にしていきたいと考えていらっしゃることを教えてください。

楽しく過ごすことですね。益田だからということもないのですが、とりあえずもう、死ぬまでの時間は一定だから、その時間は楽しく過ごしたい。嫌なことでも楽しいと思えるような気持ちでありたい。どんなことがあっても、そこにちょっと楽しいことを見つけれられる。見つけて暮らす。こんなふうに笑っていますけど、私の日常にも、大変なことはたくさんあります。でも、そこで腐ってもしようがないから、日々1個は、楽しいこと、笑えることをみつけながら日々を送りたいなと。



（記事一部抜粋）

続きはこちら▶